

分科会報告

授業論・組織論分科会 二日目午後

報告：東垣 淳（兵庫・宝塚サークル）

「授業論・組織論分科会」は、レポート数が少ない二つの分科会が合体した形となり、二日目午後の1コマを使って行われました。8本のレポート提出があり、そのうち6本の報告がありました。この分科会は、仮説実験授業研究会の中でも、とても重要な部分だと思っているので、少し寂しい感じがしました。でも、少なかったからこそ、時間をたっぷり使えたのでよかったと思っています。

大阪の二宮聡介さんからは、昨年度も論議された〈かげとひかり〉の改定案が出されました。欠席されていたので、代わって私がレポートを読みました。二宮さん曰く、「授業書の最後の問題で、たくさん子どもたちが間違えてしまうことが気になります」ということで、〈太陽の光の代わりにビー玉や電灯を使う〉という案が出されました。「絵本の絵をそのままコピーしてある授業書だと、鏡の角度が見えにくい」というのは、私も含めて多くの人が言っているみたいです。大阪の西田隆さんは、絵を

大きくきれいにしたものを使っているそうです。愛知の齊藤裕子さんは、「確かに間違いやすい絵だけど、最後は外に出て、みんなで遊びながらこの問題をやっていけばいいと思う。教室の中で、この絵だけを見て予想することはさせないです」と言われました。私も数年前、3年生相手にやったのですが、「鏡を自在に扱って、反射光をコントロールできるようになって、そしてたのしく遊べるようになったらOKかな」と思っていました。発表者の二宮さんには、そのような意見が出たことを、終了後、お伝えしました。

愛知の齊藤裕子さんのレポートは、「西川さん分科会」と「教師論分科会」だけでは発表しきれなかった続きの部分を発表してもらいました。先日亡くなられた西川浩司さんのお話もまじえながら、《花と実（たね）》の授業の中での、様々な工夫を教えてくださいました。西川さんが亡くなられて元気がない齊藤先生に気づいたある子が、「西川先生はいなくなっても、写真が残っているじゃん」と言ってくれたとか。私はまた泣きそうになりました。

静岡の増山明夫さんからは、科教協や教科書の授業と、

仮説実験授業を比較した研究会の感想をお聞きし、「教科書をやらないといけないときは、無駄な時間をとらない方がいいことが、実験的に明らかになっています」と教えていただきました。

愛知の牛山尚也さんからは、「ルネッサンス豊田校にある、職員の一体感はどこから来るのか」というレポートが。「それはやっぱり校長の犬塚さんのおかげだ」と再認識させられたとか。「時には、和菓子を用意されていて、犬塚さんがお茶をたててくれます」とのこと。いい高校ですね～。

群馬の栗原正治さんからは、「犬塚さんにはかないませんが…」と、先生たち向けに書かれた『校長通信』の発表がありました。若い先生たちに、とても好評のようです。「みなさんは、校長先生にどんなことをしてほしいですか？」と参加者に質問もありました。「夏の職員作業が終わったら、アイスクリームを差し入れしてくれる校長先生がいい！」「校長室に引きこもらないで、子どもたちと遊んでほしい」「若い先生が気軽に相談できる校長さんがいい」などの意見がでました。「犬塚さんのようにお茶

をたてる勉強もした方がいいかも」という意見も(笑)。

私、兵庫の東垣淳のレポートは、『違う問題になるのでは?』というものです。これは、20年以上前に西川さんに教えてもらったことです。「せんべいを粉々にする」という有名な問題を説明するときに、「かけらが飛んでいってしまうといけないから」と袋に入れて割る人がいたそう、それについて西川さんが兵庫サークルの例会かどこかで、当時若かった私たちに教えてくれたことです。詳しいことを知りたい方は、私にご連絡下されば、レポートをお送りします。西川さんや先輩たちに学んだことは、基本的なことでも、もっともっと若い人に伝えていかなければいけませんね。

もう1本、私のレポートがあったのですが、中身や発表場所が間違っていました。深くお詫びいたします。

たのしく司会ができました。ありがとうございました。